緑のまち

―――北国分だより―――

第１２１号　２０１７．４．２０発行

編集「北国分外環対策協議会」で検索
市川市北国分 4-8-6　佐々木方
TEL　047-371-9528
http://midori.kuuki.info
ishitaka6648@gmail.com

「小塚山公園拡充計画」ワークショップ報告

前号からご報告しております「小塚山公園拡充予定地の整備を考える会」ワークショップが１月２０日の４回をもって終了致しました。そこで、ここ北国分で幼少期を過ごされ、５０年以上前の小塚山や道免き谷津を熟知されている「市川緑の市民フォーラム」の佐野代表から、計画図からの感想を戴きましたので御紹介したいと思います。

人にも生き物にも素敵な場所に

・・・・計画図からの感想・・・・　　佐野　郷美

1.　今回の資料に載っている図は、あくまでも「イメージ図」です。実施設計の段階で、このイメージ図通り、あるいはそれに近いものになっているかどうかのチェックが必要です。予算がかけられないからという理由で、どんどんイメージからかけ離れたものに変質する可能性があります。

2.　かつてのどうめき谷津の環境要素は、なんとか網羅できていますが、やはり気になるのは、水辺の整備の仕方です。池や小川の作り方が気になります。コンクリートや石組みではなく（かつてのどうめき谷津にはなかったものです）、見えないところにビオトープ用のゴムシートなどを張って、その上に土をかぶせて、水生植物が自然に生えるような岸辺を是非とも実現したいものです。

3.　シンボルツリーがありますが、どうめき谷津にふさわしいシンボルツリーは何だとお考えでしょうか？　私は、大きなエゴノキか、大きなコブシかなぁ、なんて思います。エゴノキは、５月末に白い可憐な花を下向きに咲かせ、エゴノツルクビオトシブミという小さな首長の甲虫がきて、葉を巻いて「落とし文」をつくり、その中に産卵します。子供達にとって、とても可愛く不思議な生き物です。コブシは、ご存知のように、三月末、桜が咲く直前に真っ白な花をたくさんつけます。春の知らせという感じです。みなさんの総意でシンボルツリーが選べるようにすべきと思います。そのためには、市民側からの働きかけが必要でしょう。

4.　植栽木の選定です。以前話したかもしれませんが、国交省にガイドラインがあり、樹種について、自由に選べない可能性があります。かつて、里見公園下の堤防工事では、地元の斜面林の木の種から苗木を作って、それを工事後に植えました。これは国交省の事業でした。どうめきでも、植栽木については、最初から市民参加、特に地元の小さな子を持つ親子に参加を促し、苗木作りに参加してもらって、育ったものを植栽するようにできたら、地域の生物多様性を生かすことになります。いかがでしょうか？

5.　最後に、生物多様性保全のための取り組みです。イメージ図に、湿地や水田も可能な部分などがありますが、放っておくとすぐに植物の遺体や土砂が堆積して、湿地ではなくなってしまいます。アカガエルは浅い開水面が産卵に必要です。ヘイケボタルはジクジクした湿地で所々に水たまりがあるような環境が重要です。それを維持していくためには、行政だけに任せていては無理と思います。早めに関心ある市民を組織化して、適当な間隔で作業というか、どうめきを楽しめる活動を立ち上げる必要があると思います。とにかく、生物多様性の観点から、何が必要か、今から考えていきたいですね。

私はどうめき谷津で遊んでいた経験が、私を生物教師にしたように感じています。だから、どうめきに外環道路が計画されたことはとても残念でしたが、この公園計画は、改めてどうめきを人にとっても生き物にとっても素敵な場所に出来る可能性があるので、こだわりたいのです。アカガエル、アズマヒキガエルとヘイケボタルについては、私もここに定着できるように頑張りたいと思っています。

ワークショップに参加して　　石居　隆行

紙面の都合上、計画の詳細はホームページご参照ということで、ここでは問題点等気付いた点をお知らせしたいと思います。全ての要望を盛り込む事は、難しいのは承知の上ですが、重要な事は取入れられたと考えています。

造園設計会社の説明で小川等水辺の作りが、洗出し仕上げ（セメントモルタル表面に色石等の表面を浮かび上がらせる仕上げ）にするとのことでしたので、これは止めて戴きたいと強く要望しました。佐野先生の意見が正論だと思います。シンボルツリーに大きなエゴノキも賛成です。かつての小塚山には、エゴノキが咲き誇っていた時期があり、その実が大好物のヤマガラも多く見られていたのですが、エゴノキの衰退とともにヤマガラもすっかり姿を見せなくなりました。探鳥会でも村岡先生がこのお話をよくされておりました。

今回のワークショップには、風の谷こども園の先生方も参加されました。小さなお子様との共生といった観点からも、御父母も市川市へ様々な御意見を示していただきたいと思います。佐野先生の小塚山や道免きでの自然との原体験が、その後の人生に多大な影響を与えたお話からも察するところです。

そして一番重要な事は、佐野先生のおっしゃる通り、この計画案が実際にどれだけ実現されるか皆さんで注意して見ていくことです。ワークショップの閉会でオブザーバーである某大学の准教授が、「この素晴らしい計画案は必ず予算の都合などで、この通り出来上がることは無い、今まで携わってきた計画はそのようなものばかりだ。」と言い切りました。ここ北国分では、そのような事は許しません。外環道で破壊された小塚山や道免きを少なくともこのレベルの公園にして頂かなくてはいけないのです。４０年以上、外環運動を続けてきた北国分住民の皆さんの歴史が許しません。通常の公園整備計画とは歴史的背景であるバックボーンが違うのです。皆さんで注意深く動向を見守ってください。

市川ＩＣから北上する 3・4・18 号線が開通し、３ヶ月以上が経過しました。先日、市川の空気を調べる会の総会で、この付近の空気が面的に汚染され始めたという報告がありました。外環道が開通されれば、確実に北国分の空気は汚染されるでしょう。出来上がる公園の緑と水辺が、この汚染を緩和してくれることを祈ります。

国分 7 丁目付近で、地盤沈下

緑のまちのホームページに、先日、国分７丁目のＨさんから、以下のような投稿がありましたので御報告いたします。

我が自宅では以下のような地盤沈下による被害が甚大な状況が続いております。（あくまでも一部のみの記載です。）
家屋全体が地盤沈下によりずれ、井戸のポンプが建物に押されて傾いている状況。

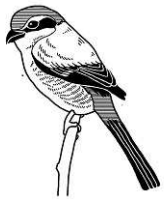
家の前に昔存在していた木の電柱は切られ、その上にアスファルトが覆われていたが、地盤沈下により残っていた電柱がアスファルトを突き破り現れてきた。

地盤沈下により、水道管破裂及びガス管からのガス漏れが発生した。本現象は複数の世帯で発生。各部屋にクラック発生。外壁や土台に亀裂多数。その他多数。

以上の状況を以前より事業者に訴えているが、事象の発生後行った二回の調査作業のみ実施。昨年の 10 月において、今後の対応につき説明しますと事業者より一昨年の 9 月にうけていたが、既に 10 月を経過した上、現在まで一切のアプローチ無し。一度、メディアに訴え、取材を受ける下準備をしていた時、なぜか？自治会長より取材を受けぬように要請される。

非常に深刻な問題が起きました。皆様も関心をお寄せください。

□探鳥会報告□



この鳥は？

正解はモズでした

日　時：平成 29 年 2 月 12 日（日）
天　候：晴れ、風強
参加者：岡田・鈴木・長木・越田・佐々木・鈴木・石居・石居・村岡　９名
確認された鳥：ヒドリガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ
コガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　カイツブリ
キジバト　アオサギ　ダイサギ　ユリカモメ
オオタカ　コゲラ　ハシボソガラス　ハシブトガラス
シジュウカラ　ヒヨドリ　ウグイス　エナガ
メジロ　ツグミ　ルリビタキ　ハクセキレイ　計 24 種

コメント：晴れましたが、風が強く鳥は出ないと思いましたが、オオタカが出て、上空を舞っておりました。他にルリビタキやエナガ、メジロがよく見られました。　（村岡）

＊＊＊

小塚山・じゅんさい池バードウォッチング初参加

岡田（北国分 2 丁目）

小塚山・じゅんさい池バードウォッチングに参加したい気持ちになった理由は、最近毎日夕方近くになりますと、身体の健康を考えてジョギング含みのウォーキングをしています。コースは自宅から小塚山、じゅんさい池を経由して、自宅に戻ってきます。その時、ふと自治会の掲示板を見まして、「小塚山バードウォッチング 2 月 12 日（日）午前 10 時 00 分に行います。参加をお待ちしています。」に、とても興味を持ちまして是非参加したいと思うようになり、11 日（土）に越田様に電話をしましたら、「参加をお待ちしています」との、心がわくわくするようなご返事をいただきました。当日、晴天で集合時間は 10 時でしたが、待ちきれず、心をうきうきしているため 9 時 30 分に小塚山に集合場所に到着しました。10 時間近には、バードウォッチングの愛好家のメンバーが集まり、先生のご挨拶の後、各メンバーの自己紹介がありました。早速小塚山一体の野鳥の説明がありました。先生から「今日は、大鷹が飛んでいるので、野鳥は、警戒しているようですね。大鷹は猛禽類、食物連鎖の頂点に位置しています。獲物を捕らえるときは、急降下（130km に達する）して獲物を、鋭い爪で捕らえるのです。」そうこうしている内に、大鷹が飛び去ったようで、野鳥の囀りが聞こえるようになり、野鳥の姿も見られました。先生から詳しい説明があり、お話をお聞きしている内に、野鳥の知識を深めることが出来、自然と触れる楽しめる一日でした。今後とも、時間があれば参加したいと思います。今後とも宜しくお願いします。

野鳥との出合い

村岡　幸生

恥ずかしいことですが、私は、日本野鳥の会の創設者が中西悟堂であることを知ったのは、入会してしばらく経ってからのことでした。探鳥会に参加の折や、会報の「野鳥」を読むにつれ、会の理念が天台宗の僧であった悟堂の仏教の「不殺生の戒」や神道の「八百万の神」の精神に基き、昭和９年の創設時より、自然保護、環境保全、生物多様性を主張していたことを知りました。それでも、しばらくは、鳥を追いかけることに専念しておりました。だいぶ経ってからのこと、野鳥を観察している内に、その不思議さ、その生命力、健気さに心を打たれ、又、あらゆる動植物の環境との深い結び付きを、単なる知識としてではなく、現実のものとして知るようになりました。

その年生まれたメダイチドリの若鳥が、１０月に入ってから、皆に遅れ、ただ一羽北国からの旅の途中、干潟で翼を休め、エサを獲っているその姿には、少しの恐れもなく、毅然とし、これから遙か遠くオーストラリアまでの、おまけに初めての旅を続けるその能力には非常に驚かされました。又、夏の終わりに、北国に帰るアジサシやコアジサシの大群が、又、夏の初め、南半球から、さらに、北極圏への旅の途中のシギやチドリの群れを干潟に見たりして、生態系は地球全体で動いていることを、つくづくと知るようになりました。そして、探鳥と言う言葉は、単に鳥を見る「バードウォッチング」ではなく、その根底には、悟堂の言う、命の尊さの一瞬の輝きを自分の目と心でとらえ表現することであることも、次第に感ずるようになりました。

数年前のことですが、１０月の小塚山で、他の鳥の鳴きまねをするカケスがホイホイホイとサンコウチョウの声をまねておりました。それは、そのカケスが私に、自分が夏を過した山ではサンコウチョウが鳴いていたのだと話しかけているように想えました。私は、その話を至福の思いで聞きました。又、冷めたい北風の中、双眼鏡の視界の中に飛び込んで来た一羽のミヤマホオジロが、じっと動かず、しばし、その静寂の中に無言の会話を交わし、胸に熱いものが込み上げて来たことも思い出します。その頃からか、私は、「一期一会」と言う言葉を意識するようになりました。元々は、茶の湯の会の心得とか、禅の心とか言われておりますが、一生にただ一度かぎりの出合いを意味するとのことです。この鳥との出合いは、自分の生涯において、これが初めてであり、二度とないものだと思うと、その一瞬を大事にしようと思うようになりました。

野鳥の見方やマナーなど色々と考えたこともありましたが、今は、ただ野鳥との出合いを、ひとつひとつ大切にして行こうと、常日頃思っております。

《私は戦争を忘れない》１１

「回想」

笹沼　裕司

内地へ帰還し、地元の国民学校初等科五年に編入され漸く馴れたころの事である。

近頃はサイレンの音にはあまり驚かなくなっていた。あたかもこの日午前の授業も終わりに近い時、警戒警報の発令のサイレンだ。「みんな急いで帰りなさい！」教師の指示があり、私は仲間と一緒に駈足で家に向かった。息を切らして「ただいま～」と、その時「キィーン　バリバリ　ブーン」といきなりの襲撃だ。

グラマンの鋭い降下音と耳をつんざかんばかりの大音響に、思はず母にすがりついた。防空壕に入る隙もない突然の襲撃だった。この時の機銃掃射の音は何十年か経たいまも、鼓膜にこびりついている。近くにあった造兵廠がやられたと後で知った。

私たちは小笠原島から引揚げて来たばかりで（私たちの乗った船は周囲を輸送船団に守られながら、予定より五日ほど遅れ芝浦に入った。この船が最後で以降の船はみな攻撃に逢い正に命拾いをした稀有な体験をしたものである。）葱と繭、また瓦の産地でもあるＦ市の日赤病院に落ち着いた。父の勤務先でもある事から、長い病棟の東側の端に両親と姉（居候）と起居していた。

先述の通り、日赤での体験はいくつかあるが、その中でも特筆すべきは、東京大空襲である。「おい大変だ！出て来い」と父に言われ父の手の指す方を見て、何が大変か東の空が真っ赤に染まっているではないか、じいっと見つめる父の傍らで私は寒さと恐怖で震えていた。三月九日夜の事である。続いて十四日には大阪の大空襲である。本土決戦の態勢が整わないうちでの悲劇、更に何とも表現の仕様がない、八月六日の広島原爆投下、つづいて九日長崎原爆投下。とこの地球で唯一の被爆国。戦争とは何んなのか。争いは絶えないのか。尽きることがないのか。人類にとって宿命かも知れない。核はいらない。争いごとのない平和な地球、その他には何も望まない。

♪♪♪　緑のまち合唱団　25 周年を迎えました　♪♪♪

三好　美智子

土曜日の昼下がり、明るく楽しいコーラスの会が開かれています。
新谷みゆき先生のご指導のもと、四季折々の歌やオリジナルソングなど様々なジャンルの歌を二部合唱で歌っています。
「音符が読めなくても大丈夫です。歌うことが好き、歌うより聴く方が好き、歌を楽しみたい方なら、どなたでもどうぞ。特に男性は大歓迎！！」と先生はおっしゃっています。笑いがこぼれる練習風景を見学にいらっしゃいませんか。
（お問い合わせは本紙８ページをご覧下さい。）

「緑のまち合唱団」は 25 周年を迎えました。発足当時をふり返ってみたいと思います。25 年前のある日、小塚山市民の森に外環道路が通ることを知った私たち住民は、豊かな緑や人々の暮らしを自分たちで守らなければ、と熱い思いで歌を作りました。題名は「この緑いつまでも」作詞　森遊子（小沢剛）さん、作曲中村盈子さん　“松は空にそびえ立ち　雑木林に小鳥啼く　ここはわたしの故郷・・・”と作った歌をみんなで歌い、気付いた時には小さな小さな合唱団が誕生していました。1992 年の春のことでした。

それから数年が経過した頃、私たちは次々と歌を生み出しました。
「三番瀬のうた」「守ろう三番瀬」「人が好きだから」「冬から春へ」「森よとわに」「明日をひらく」「ひとつの署名」などです。どの歌も「青い空や豊かな自然をそのまま次世代に手渡したい」という切なる願いがこめられたものでした。
私たちは小塚山での森の音楽会や、じゅんさい池での健康まつりで手づくりの歌を歌いました。八幡市民会館で開かれた外環３０周年の集いでは、合唱構成「わたしは小塚山」の舞台で歌い、共感の拍手をいただきました。全国公害デーの集会では、東京の九段会館、文京シビックホール、読売ホールの舞台に他の合唱団と共演し、私たちの作った歌も会場に響きわたりました。

18 年前三宅佳子さんが小塚山賛歌として作詞、作曲された「森よとわに」は、森の音楽会のテーマソングになっています。“やわらかに　真っすぐに　朝の光よ　ひわ　こげら　しじゅうからたちの　声透きとおる　右　左　飛び・・・”
創作曲を生み出した小沢さん、三宅さん、初代指揮者の伊藤さんは亡くなられましたが、遺された歌はいつまでも生き続けることでしょう。
新谷先生はこのほど「緑のまち合唱団創作曲集」の復刻冊子を、新しいメンバーのために手づくりして下さいました。先生は私たちの創作曲をオリジナルソングとして歌い継いで下さっています。

緑のまち合唱団　練習日　第３土曜日　13：30～15：30
場所：小塚山研修所　会費１ヶ月　５００円（見学は無料です）
事前に連絡下されば楽譜を用意しておきます。　連絡先：佐々木（371）9528

こうのだい九条の会　自民憲法改正草案を読むシリーズのご案内
第６回　4月23日（日）　14：00～　現代版“治安維持法”「共謀罪」
第７回　5月21日（日）　14：00～　草案の危険なねらい
会場は、いずれも西部公民館です。　連絡先：松林（375）2925

次回の探鳥会　4月29日（祝）　集合　小塚山あずまや　10時　雨天中止

☆ ☆

緑のまちあれこれ

○ 工事中の外環道には鋼製の遮音パネルが取付けられ、緑のまちの風景は台無しですが、道免きでは、工事残土がようやく撤去され、フラットな状況に戻されて今年の桜は綺麗でした。そして、その向こう側には、小学生から募集した名前をただペイントしただけの歩道橋が寂しく建っております。

○ 前号で、菅野さんが北国分の高齢化について触れていました。仕事柄、不動産や建築のマーケットを分析しておりますと、子供さん世代は都心部のマンションや戸建住宅に住み、親世代の住んでいた郊外の住宅は売却される傾向で、総武線徒歩圏は、ニーズはありますが、都心から離れたバス便の不動産は、見向きもされない状況です。ここ北国分でもそのような傾向はありますが、まだ新しく住もうとする方の流入はあるようです。

森の音楽会について

昨年10月に行われた森の音楽会には多くの方々が参加され、森の中のジャズ演奏を楽しむ事ができました。「今年はどうでしょうか」と話し合いを進めています。又、やって欲しいという声をたくさん頂き、今年も秋10月15日（日）に開催できる様、準備を進める事になりました。皆さんの御意見、御要望がありましたらお知らせ下さい。そして御協力をよろしくお願いします。

森の音楽会実行委員会　佐々木陽子

■ 編集後記■　毎回探鳥会を指導して下さる村岡先生が「バードウォッチング」でなく、なぜ「探鳥」なのか、ということで中西悟堂に触れて寄稿いただきました。何事にも深く掘り下げると新しい発見があります。初参加の岡田さん、ありがとうございました。皆様、野鳥を通じて北国分の良さを実感してください。２月末から、オオタカが鳴き始めました。（Ｔ．Ｉ）